

1998年度 文教大学生生活科学研究所

公開講座記録

開講期間： 第1・2回 1998年7月4日(土)
第3・4回 7月11日(土)

テーマ： 日本の食文化を考える——その歴史と特質——

「暖衣飽食」の時代といわれるように、今日われわれ日本人は非常に豊かな食生活を享受している。このような日本の食文化は、どのようにして作り上げられてきたのだろうか。改めて日本の食文化の問題点を検討してみたい。まずその歴史的展開過程を明らかにするとともに、日本の食文化のひとつのルーツである江戸時代の食文化の特性を具体的に考察する。さらに、中国や世界各地の食文化との比較を通して、日本の食文化の持つ独自性などを明らかにする。つまり、文化史的な視点からのタテの比較と、比較文化的な視点からのヨコの比較を通して、日本の食文化の特質を浮かび上がらせていきたい。

・第1回 「近代日本の食文化の成立」——日本の食卓にみる食の文化——

文教大学短期大学部講師 杉田 浩一

どんなに食生活が変わったように見えても、人が食べ物を通して体内に取り込む栄養素は、原始人以来不変である。「食の変化」とは食べ物の構成物質そのものの変化ではなく、食べ物を取り込むスタイルの変化である。わずかな絵の具から多彩な絵がつけられるように、食品素材は有限でもつけられる料理は無限である。そしてその成果の判断は、生活文化に根ざす価値観を尺度にしている。したがって食の変化は人のライフスタイルの変化を反映している。(中略)日本の「食」の特徴を食文化の視点から展望し、近代における変容の経過をたどり、さらにこれからの日本の食卓を支えるさまざまな要因について考えてみたい。

・第2回 「中国の食文化」——飲み食いと中国文化——

文教大学文学部助教授 李 永寧

食べるということはとても大切な行為である。“食べる”ということだけなら、動物や植物でさえその重要さを知っている。歴史的に長い飲み食いを通して、食文化という精神的なものを形成してきた。中国の食文化について考えてゆこう。

- ①故人との会食 ②つきあいとしての食 ③酒について ④お茶について
⑤宴会について ⑥食べる道具について ⑦食と中国語について

・第3回 「江戸のファーストフード」

文教大学短期大学部教授 大久保洋子

- 1 1590年（天正18）徳川家康は江戸に移り、1630年征夷大將軍となり、江戸幕府が開府された。以後士農工商の身分制度を軸とする封建社会と鎖国という特殊環境の状態が260余年続いた。この間日本文化は独自の形を創造していった（極一部外国文化の影響はあったが）。食の世界も現在日本料理・和食と言っているものの大半は江戸で完成をみたものが多い。その背景には江戸が当時、世界でトップクラスの大都市化していたことがあげられる。すなわち18世紀には江戸の人口は百万人を越えていたのではないかと思われる。その人達の食をまかなう為に変な努力がなされていた。ここでは町人や下層武士に焦点をあてて、活気あふれる江戸の食文化を垣間見ることにしたい。多くの食物が外食化していったが、中でも代表的なてんぷら・すし・そばについて述べてみたい。
- 2 江戸の「てんぷら」（中略）
- 3 悪徳で生まれた「にぎりずし」と「そばきり」（中略）
- 4 てんぷら・にぎりずし・そばについて述べたが、これらの食べ物が普及した背景の一つに調味料の発達と普及があげられる。醤油、かつお節、砂糖、みりんなどの庶民への普及が可能になったことがおおいに影響している。また人口密度と男性人口の割合が高かったことが経済消費都市としての江戸を商人の街にしたことが外食文化に拍車をかけたのである。

・第4回 「世界食文化の旅」——東西の台所を覗く——

文教大学人間科学部教授 森井 利夫

人間の生活にとって欠くことのできない“食”は、実用性のみならず、特定の国や地域の文化を形成するほどの興行や多様性をもつ人間の営みである。日本の食文化だけをとりあげても多彩であるのに、世界の食文化について1回で語るなど、時間的にも能力的にも到底不可能なことである。ましてや私は、いかなる意味でも“食”の専門家ではない。一人の“もの食う旅人”である。しかし、世界のかなりの国を旅し、他の何にも増して、その土地の“食”への期待と関心に胸おどる思いをしてきたのも事実である。決してグルメではなく、相当のくいしんぼうと自負している。いわゆる食文化論は、すでに数多く出版されており、それらをこえる見解はもちょうがない。今回は、1996年にはじめて外国の地を踏んで以来、現在までに訪れた国々で垣間見た食生活、台所事情の印象のいくつかを紹介し、若干の人間学的考察をこころみたい。

- 1 食文化の連続性と非連続性
- 2 食文化と“食感”（texture）について
- 3 世界の食生活点描
 - ①アメリカ フロンティアとプラグマティズム／野外料理の延長／イギリスの影響／アメリカンステーキ／ハンバーガ／ホットドッグ／コココーラ
 - ②イギリス 厳しい自然環境／大英帝国とピューリタン／ローストビーフ／ソーセージ／

- キドニーパイ／ビールとスコッチ／イングリッシュティー
 ③スペイン ヨーロッパの辺境／イスラム・カトリック文化の混在／豊かな海・山の幸／
 パエリヤ／トルティージャ／チューロス／生ハム／アニス／エスプレッソ

1998年度 文教大学生生活科学研究所

研究発表会記録

期 日： 1998年12月18日（金）
 時 間： 午後1時～午後5時20分
 場 所： 越谷校舎8号館5階8502教室

発表タイトル

- | | | |
|----------------------------|------------|-------|
| (1) 本学学生の体型に対する意識と実際 | 教育学部 | 金子 俊 |
| (2) 要旨偏見に関する実験的研究 | | |
| ③人気マンガの影響について | 人間科学部 | 丹治 哲雄 |
| (3) 非合理現象信奉に関する研究 | | |
| ②権威主義的傾向他との関係について | 人間科学部 | 丹治 哲雄 |
| (4) 広告の見方について | | |
| ——広告を通して商品を考える—— | 情報学部 | 坪井 順一 |
| (5) 地域社会におけるカウンセリング教育の現状 | 教育研究所 | 宮地 孝宜 |
| (6) 生涯学習計画におけるカウンセリング教育の試み | 人間科学部 | 高柳 信子 |
| (7) 高齢者の生活と意識についての一考察 | | |
| ——各国との比較—— | 教育学部（名誉教授） | 泉 敬子 |
| (8) 大学生の自我同一性地位に関する研究 | 人間科学部 | 本田 時雄 |
| | 人間科学部（研究生） | 阿部 亘 |